



手指衛生キャンペーンを実施



当院感染制御部は、2019年5月、病院玄関ロビーに「手指衛生キャンペーンブース」を設置し、患者さんや面会者の方に向け、手指消毒の適切な方法を実践しました。感染症予防に一番重要なのが正しい手洗いと手指消毒です。手指消毒キャンペーンでは、当院の感染対策を担当するプロフェッショナルな医療スタッフが、来院された皆様に向けて、丁寧に手洗いや手指消毒について、ご指導させて頂きました。



セカンドオピニオン外来とは

セカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関に通院している患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申込みください。通常の外来受診とは異なりますのでご注意ください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、診療情報提供書や資料を用意いたしますので、担当医にお申し出ください。

■ 問い合わせ先
 セカンドオピニオン外来
 TEL: 03-5803-4568 FAX: 03-5803-0119



梅いち輪募金にご協力ください

梅いち輪募金（東京医科歯科大学医学部附属病院支援基金）は、患者さんから寄せられるサービス改善のご要望を、できるところから実現するために活用させていただき基金です。一口1000円からお申込みいただけます。詳しいことは下記までお問い合わせください。

■ 問い合わせ先
 東京医科歯科大学医学部附属病院総務課
 TEL: 03-5803-5097
 Email: syomu2.adm@tmd.ac.jp



東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために、国際交流事業、学生育成奨学事業などの「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円からお申込みいただけます。寄附方法については

- ①振込用紙により郵便局又は銀行から振込み
- ②インターネットでのお申込（クレジットカード決済）
- ③現金のお持ち込み

のいずれかにより受け付けております。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ 問い合わせ先
 東京医科歯科大学募金室
 TEL: 03-5803-5009
 Email: kikin.adm@tmd.ac.jp



献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

■ 問い合わせ先
 東京医科歯科大学献体の会事務局
 TEL: 03-5803-5147



全診療科における完全紹介制の導入について

当院では全診療科において、完全紹介制とさせていただきます。当院に初めておかけの場合、新たな診療科におかけの場合、前回の来院より3ヶ月以上経過している場合は、原則として他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）が必要となります。

《例》他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）が必要になるのは…

- ・ある科を受診中の方で、別の診療科を初めて受診したい場合
- ・過去に受診した診療科でも、自己判断により3ヶ月以上受診がない場合

完全紹介制を導入した経緯は、専門的な診療を提供する大学病院としての使命と役割を果たすためですので、ご理解・ご協力をお願いいたします。



東京医科歯科大学医学部附属病院 「みんなの健康を育む病院だより」



オアシス

当院で活躍する専門・認定看護師



良質な医療の一元化を目指して

東京医科歯科大学医学部附属病院
 病院長 大川 淳（おおかわ・あつし）

令和元年、新たな時代の幕が開きました。昭和の時代に医学を学び、平成の30年間は医者人生を必死に歩み続けました。令和の時代に自分は何をすべきか…そう考えたときに、東京医科歯科大学の良質な医療を、東京に、日本に、世界に広げる一助となる仕事をしたいと思いました。その大きな前進となるのが、今年7月からスタートした機能強化棟の建設工事です。

東京医科歯科大学では、医学部附属病院と歯学部附属病院の機能を効率的に医療現場に生かすために、建築物の構造を中心にハード面での一体化と管理運営の一元化をめざして、「機能強化棟」の建設工事をスタートしました。

この工事に伴い、当院をご利用の皆様には、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。約3年間にわたり、建設工事に関わる注意事項等は、病院内の掲示やホームページなどをご覧ください。建設工事期間中は、当院をご利用される皆様の安全と安心を第一に心がけてまいります。

建設予定地で研修医に機能強化棟の役割を説明する大川 淳病院長



脊磁計で撮影した末梢（手掌）における神経活動の様子

INDEX

- 病院長ご挨拶
- がん先端治療部が誕生！
- みみ・はな・くち・のどがんセンター
- 腎・膀胱・前立腺がんセンター 泌尿器科
- プレストセンター
- 難病診療部に稀少疾患先端医療センターができました
- 低侵襲手術とは
- 歯学部附属病院スペシャルケア外来
- 新任科長・部長・センター長ご紹介
- 身体を傷つけることなく脊髄の神経活動を可視化するシステム「脊磁計」を開発
- 臨床栄養部漆器椀プロデュース
- 看護部より
- 中学生医療体験教室開催
- 脳卒中センターが消防署で脳梗塞救急医療セミナー開催

がん先端治療部が誕生!



がん先端治療部
三宅 智 (部長・教授)

当院にはこれまで、がん診療に関しては複数の診療科による診療を積極的に行ってきましたが、がん医療の発展とともに、ますます診療科の協力体制が重要になっています。このような流れの中で誕生したのが「がん先端治療部」です。2019年8月より「がん先端治療部」を新設し、診療科の枠を超えて横断的、包括的にがん診療を円滑に行う体制を整えて、患者さんやご家族のニーズに的確にお応えし、最善のがん医療を病院が一丸となって提供できるように心がけてまいります。また3センターを新設し、歯学部附属病院も含めた複数診療科による包括的ながん治療を行います。



新しい3つのがんセンターの特色



みみ・はな・くち・のどがんセンター

頭頸部外科 朝蔭 孝宏 (科長・教授)

非常に豊富な症例数(都内ではがん研有明に次ぎ、第2位の症例数)を誇り、頭蓋底悪性腫瘍、小児腫瘍、外耳道がんなど希少癌を多く手がけています。これらの治療経験は全国一であり、日本中から患者さんが集まっています。本邦における難治がんの最後の砦としてスタッフ一同力を合わせて、それぞれの患者さんにベストの医療を提供しています。



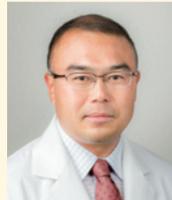
耳鼻咽喉科 堤 剛 (科長・教授)

外耳道がんはその希少性(100万人に一人)と解剖学的な複雑さ、手術の難度が高い点から、治療可能な施設が極めて限られます。外耳道がんの手術加療について当科は国内で突出した症例数を持ち、各地から症例が集まっています。また、側頭骨・中頭蓋底周囲の肉腫や頸静脈孔腫瘍など特殊な中・後頭蓋底腫瘍に対しても、脳神経外科や頭頸部外科、形成外科と合同で手術治療にあたっています。さらに術前画像の3D手術シミュレーションや術中CTナビゲーションなど、治療精度向上のための最先端技術も活用しています。



腎・膀胱・前立腺がんセンター 泌尿器科 藤井 靖久 (科長・教授)

世界トップレベルの治療を行うとともに、患者さんと社会に貢献する新治療法の開発、実践に努めています。具体的には泌尿器がんのミニマム創内視鏡下手術、浸潤性膀胱がんの膀胱温存、腎がんの無阻血・無縫合腎部分切除、前立腺がんの部分治療など、オリジナルな治療法の開発と洗練を進めています。同時に、世界の標準的の低侵襲手術である、ロボット支援手術(ダビンチ手術)も施行し、あらゆるニーズに応える医療を提供します。



ブレストセンター 乳腺外科 中川 剛士 (科長・講師)

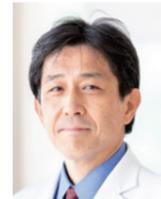
乳がんは外科手術だけで治す時代ではなくなりました。大学病院ならではの、放射線診断科、治療科、形成外科、病理診断科、緩和医療、遺伝相談、妊孕性など関連診療科と密に連携し、患者さんご家族のサポートをしていきます。特に乳がんの大きさや場所などから乳房温存が難しいという場合も、形成外科と連携し、乳がん手術と乳房再建を同時に実施する同時再建手術は20年以上の実績と多くの症例を積み重ねた経験があります。また全国的にも数少ない乳がん学会の専門医資格を持つ放射線科医が所属しています。より効果的な治療を行うことを目指した遺伝子診断も受診可能です。

がん患者さんの手術後の口腔ケアを行っています

久保田 一政 (歯学部附属病院・スペシャルケア外来講師)

がん患者さんに対して、がんの治療後も口・歯の痛みなどにより食事の摂取が困難とならないように、歯学部附属病院と医学部附属病院が連携して治療を行っています。特に、手術直後で患者さんの移動が困難な場合でも、病棟への往診によって口腔内を管理することも行ってまいります。当院でのがん治療がきっかけになり、歯科が介入することで、口の機能を良い状態に保ち、感染源を少なくすることで、がん患者さんのより良い予後とADLに貢献することを目標にしております。今後とも積極的に医科歯科連携を推進していきたく考えております。

難病診療部に稀少疾患先端医療センターができました



難病診療部
森尾 友宏 (部長・教授)

難病診療部は、膠原病・リウマチ先端医療センター、潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター、神経難病先端医療センター、稀少疾患先端医療センターの4つのセンターに再構成されました。今回稀少疾患先端医療センターが加わることで、より広汎な疾患にチームとなって対応できるようになりました。希少難病の患者さんを含めて、それぞれの難病を専門とする「センター」を受診することで、正確な診断から始まる最善の診療を受けることができます。さらに大学病院ならではの、ゲノム解析や先端的画像解析、そして先端医療などを提供することにより、日本を先導する最高レベルの診療を提供したいと願っています。



低侵襲手術とは?



低侵襲手術とは、患者さんの体力的な負担を軽減し、術後の早期社会復帰を可能にしようと開発された手術法です。当院で受診できる低侵襲手術について聞きました。

低侵襲医療センター
絹笠 祐介 (センター長・大腸肛門外科教授)



Q. 低侵襲医療センターで受診することができる低侵襲手術は?

絹笠: 当センターでは各診療科が協力しながら安全かつ確実な低侵襲治療を患者さんに提供しています。扱う疾患は悪性疾患から良性疾患まで多岐にわたっています。内視鏡下手術については、食道外科、胃外科、大腸・肛門外科、肝胆膵外科、小児外科、泌尿器科、周産・女性診療科、呼吸器外科が、各科の取り扱う疾患に対して腹腔鏡下手術や胸腔鏡下手術等を積極的に行っております。ロボット支援手術については、食道外科、胃外科、大腸・肛門外科、胃外科、泌尿器科、周産・女性診療科、呼吸器外科が、最新の手術支援ロボットであるda Vinci Surgical System Xiを使用して、実施しています。大腸・肛門外科においては、直腸がん手術をすべてロボット支援手術で施行し、更に全国に先駆けて結腸がんに対するロボット支援手術を開始しました(自費診療)。

Q. 当院の低侵襲医療センターの特徴は?

絹笠: 各診療科が情報共有しながら、低侵襲手術の知識・技術向上のための教育や院内で独自の技術認定制度があり、高度な技術を要する最新の手術を、安全に実施できるような体制をとっているところです。内視鏡下手術については、各診療科において経験豊富な術者が診療にあたっております。特に大腸・肛門外科や胃外科においてはロボット支援手術の国内における第一人者が手術に携わっており、患者さんにとって最良となる治療を提供しています。また、泌尿器科のロボット支援下前立腺全摘術については、前立腺手術後に起こりやすい鼠径ヘルニアの発生率を下げる手術手技も併施しております。

Q. 患者さんへメッセージをお願いします。

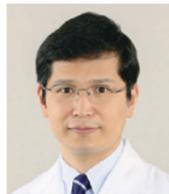
絹笠: 大腸がん、前立腺がん、胃がんなどについてロボット手術の経験豊富な医師が中心となり、小さな傷で痛みを少なく、かつ大切な身体の機能を温存しながら、病気を確実に治す手術を実践しています。患者さんにごとに最も適した治療を提供しておりますので、いつでもご相談ください。



新任科長・部長・センター長ご紹介

新任の代表者から患者さんへのメッセージをお届けします

MEセンター



内田 篤治郎 センター長・教授・麻酔科科長兼任

MEセンターは、透析装置や人工呼吸器、手術用ロボットなど、たくさんの医療機器が正しく作動するように、機器の取り扱いやメンテナンスに関する技術的なサポートを行う部門です。医学の進歩に伴い、医療機器も日進月歩で進化しています。今後も、最新の知識を取り入れていくと同時に、医療機器の安全を維持していく取り組みを通じて、大学病院の医療に貢献していきたいと思っています。

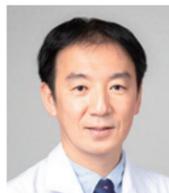
材料部



藤井 靖久 部長・教授・腎泌尿器外科科長兼任

材料部は、手術器材などを洗浄・消毒し、器材の機能性や形状を検査し、器材に適した方法で滅菌処理を行い各部署へ供給します。また診療材料を安全かつ効率的に運用できるよう供給管理しています。実務の中心である久保田英雄副部長とともに、手術器材、診療材料を適切に管理し、最善の医療・看護を目指してサポートしたいと存じます。病院内では様々な手術器材や診療材料が使用されています。これら材料の適切な管理には高度な技術を要し、私たちは、患者さんが安心して医療サービスを受けられる環境作りという重要な管理業務をしています。

精神科



高橋 英彦 科長・教授

精神科では、統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害など）、神経症性障害（社交不安障害、パニック障害、強迫性障害など）、器質性精神障害（認知症など）、睡眠障害、パーソナリティ障害などのほか、気分障害再発予防、周産期メンタルヘルス、歯科連携などの各種専門外来にも力を入れています。外来ケアでは、統合失調症MCT（メタ認知トレーニング）や双極性障害集団心理教育などの専門プログラムが行われ、疾病理解や再発防止に役立てられています。また、難治性統合失調症に対する治療薬として認可を受けているクロザピンによる治療や、さまざまな臨床試験に積極的に取り組んでいます。こころの問題も、早期発見、早期治療、リハビリテーション、再発予防が大切です。お気軽にご相談下さい。

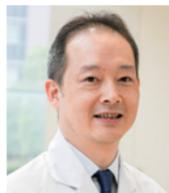
血管内治療科



壽美田 一貴 科長・講師

治療困難な脳、頭頸部、脊髄にある血管の病気を、カテーテルを用いて治療します。脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、頸動脈狭窄症などに対して体への負担がなるべく少ない方法で、かつ安全に治療を行なっています。脳神経外科、神経内科、高度救命救急センター、血管内治療科の4科で連携している脳卒中センターでは、超急性期脳梗塞治療を行い治療件数も増加しています。今後は院内だけでなく地域の救急隊とも連携して、さらに治療成績が向上するように努力していきたいと思っています。その他にも頭頸部外科、整形外科とも連携し、頭頸部、脊髄にある腫瘍の術前塞栓術なども行なっています。多くの診療科と連携してこれからも高度な治療を行なっていきます。当院では、他の病院で治療が困難であった患者様からのご相談も多く、珍しい病気の治療経験も豊富です。とくに巨大脳動脈瘤や硬膜動静脈瘻の治療に力を入れています。脳、頭頸部にある血管の病気についてお困りのことがあればご相談ください。

消化器内科



土屋 輝一郎 科長・准教授

消化器内科は、消化器（食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓）の病気を幅広く診療している科です。最先端の研究に基づいた最新の質の高い医療を提供しながらも、患者さんに寄り添ったわかりやすい診療を心がけていきます。難病の炎症性腸疾患、肝疾患（肝炎・肝臓癌）、小腸疾患を専門にしています。炎症性腸疾患ではMRIや小腸内視鏡を用いて独自に確立した診断法で病状を把握し、最新の治療や多くの治験を駆使した最先端の医療を行っています。肝疾患に関しても造影エコー検査による正確な診断や肝臓癌のラジオ波凝固療法など最新の低侵襲治療を行い、小腸疾患もカプセル内視鏡や小腸内視鏡などの特殊内視鏡による診断・治療が可能です。それぞれ専門の外来を設置して最新の検査と治療を行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

胃外科



徳永 正則 科長・准教授

胃外科では胃がんに対する外科治療を中心にを行っています。低侵襲手術（腹腔鏡、ロボット手術）に力を入れており、特にロボット手術は都内随一の経験を有しています。当科ではロボット手術を、保険診療として行うことができます。受診いただいた患者さん一人一人にベストの治療を提供できるように全力を尽くしますので、胃の病気でお悩みのことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

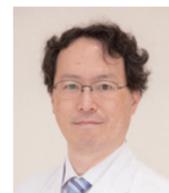
不整脈センター



合屋 雅彦 センター長・准教授

心房細動やその他の不整脈疾患に関するカテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）は年間症例数が500症例を超えており豊富な経験を有しています。小児科・心臓血管外科・麻酔科など各科と連携し『不整脈ハートチーム』をもって、小児不整脈疾患に対する治療や、開胸下アブレーション、リード抜去術等を行っております。ペースメーカーや植え込み型除細動器などを用いた心臓植え込みデバイス治療や感染症例に対するリード抜去術、遺伝性不整脈疾患などあらゆる不整脈疾患に対応可能です。お気軽にご相談ください。

循環器内科



笹野 哲郎 科長・教授

循環器内科は、心臓・血管の病気について幅広く対応しています。特に、心筋梗塞や狭心症といった冠動脈（心臓の血管）疾患、脈が速くなる・遅くなるといった不整脈、心臓が十分に血液を送り出せないことで生じる心不全、という心臓の病気に対して、最先端の治療を行っています。また、高安血管炎や心臓サルコイドーシスといった病気、遺伝性の不整脈疾患、などの診断や治療が困難な疾患に対する治療にも多くの経験があり、先進的な治療を行っています。心臓血管外科をはじめとする他の部署との連携もしっかり行っています。その上で、丁寧な説明の上に患者さんにとって最もよい治療を提案いたします。

心臓や血管の病気は、発症してからの治療も大事ですが、発症を予防することも重要です。我々は心臓・血管の病気がなぜ起きるのかの基礎的な研究や、病気を早く見つけるための研究などを行っています。それらを生かし、どのような方が病気になりやすいか、それぞれの患者さんに応じて精密に評価して、生活習慣の改善や予防的治療によって発症を防ぐ、精密医療や先制医療を今後発展させていきたいと思っています。また「がん循環器外来」を設置して、抗がん剤による心機能の低下や、近年使用頻度の高い分子標的薬における心臓への影響などの評価・診療を行うと同時に、がんに合併する血栓症についても当専門外来で診療を行います。

総合教育研修センター



岡田 英理子 センター長・講師

総合教育研修センターでは、医師になったばかりの初期臨床研修医の採用・研修や教育の管理を始め、多職種の教育研修を実施し医学部附属病院の診療レベルの向上に貢献しています。質の高い研修環境で、当院の初期臨床研修プログラムは国内で高い人気を誇ります。高度なアカデミックドクターの育成を通して患者さんに貢献できるよう、益々の改善を図っていきたく考えています。研修医は毎日患者さんを診察し、考え、勉強して日々成長していきます。ぜひ未来の良医を育てる医師育てにご協力いただけますと幸いです。

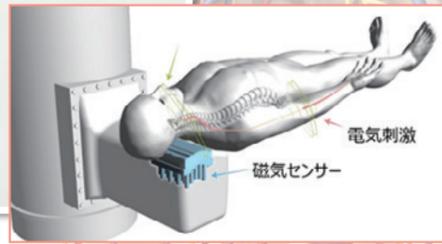
国際医療部



岡田卓也 部長・特任講師

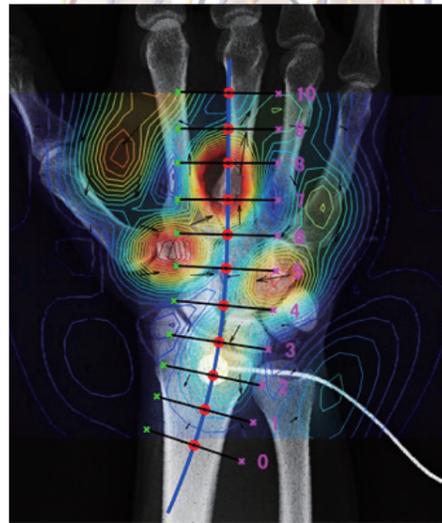
訪日外国人観光客や在留外国人が急激に増加し、その傾向は特に東京都内において顕著に表れています。当院でも外国人患者が増加しており外国人診療における言葉、文化、滞在資格や未収金など様々な問題を解決するため、2018年4月に国際医療部を開設いたしました。病院での役割は患者・家族双方の受診から入退院のサポートを行い、同時に病院スタッフの負担を軽減することを目的としています。国際医療部は設立後の尽力により、救命救急センターを中心に外国人患者の受診環境が改善され、病院全体の未収金も大幅に減少しております。また当院の健診を受けるため海外から訪日される方も着実に増えてきました。私の就任後も既存スタッフの築き上げてきたシステムを踏襲し、訪日外国人・在留外国人の皆様に対してよりスムーズで高度な医療を提供できるよう環境整備を行ってまいります。当院の外国人患者受け入れ数は全国的に見てもトップクラスであり、経験豊富なスタッフが受診や入退院のサポートをしてまいります。

身体を傷つけることなく脊髄の神経活動を可視化するシステム「脊磁計」を開発



当院地下2階には、「脊磁計室」という検査室があり、「脊磁計」という検査機器が設置されて、神経のまわりで発生する磁界のようすを目に見えるように計測して、痛みなどの原因となる神経活動の不具合を見つけて、治療に役立つ研究を進めています。これは、東京医科歯科大学、学校法人金沢工業大学、株式会社リコーによる共同研究の成果で、脊髄の神経活動によって生じるわずかな磁界を計測し、身体を傷つけることなく脊髄の神経活動を可視化するシステム「脊磁計」を開発し、実用化に向けて取り組んでまいりました。

そしてハードウェア・ソフトウェア・評価手法の開発により、頸部に加えてこれまで計測が困難とされてきた腰部についての神経磁界計測に成功しました。その研究成果の1つが国際臨床神経生理学連合(IFCN)の機関誌 Clinical Neurophysiology に掲載され、表紙に選ばれました。さらに手掌部や腕神経叢部といった末梢神経の神経磁界計測も成功いたしました。本成果により、脊磁計の臨床における応用先が広がり実用化に向けて大きく前進いたしました。この研究成果について当院が2019年7月24日に記者説明会を開催し、研究成果の内容は、新聞、ネット、雑誌などで大きく紹介されました。



末梢(手掌)の神経活動

臨床栄養部が当院オリジナルの漆器碗をプロデュース

臨床栄養部スタッフが、当院オリジナルのお碗をプロデュースしました。お碗に描かれているのは、東京医科歯科大学シンボルの「梅の花」で、3色あります。入院患者さんのために、軽くて持ちやすく、また食材が映える黒色の漆器で、美味しく食べていただきたいという思いが込められています。今後、業務用食器として販売されます。



看護部より

37名18分野の専門・認定看護師が活躍しています

当院は2019年8月末現在で日本看護協会認定看護師34名(16分野)、専門看護師3名(2分野)が所属しています。専門・認定看護師はそれぞれの専門分野で、患者のQOL向上をめざし、質の高い看護を提供しています。活動は病院全体への働きかけから、本学の歯学部附属病院との協働へ拡大しています。当院ではこれからも積極的に専門・認定看護師育成に取り組んでいく予定です。



救急看護とは?

生命危機に瀕した患者を救命するだけでなく、患者さんの社会復帰を目標にしています。看護師の急変対応能力向上のため、院内研修の企画・運営を行い、病棟での急変の振り返りや勉強会に参加し、また呼吸サポートチームとして急変させない看護を広めるために組織横断的に活動しています。



集中ケアとは?

重症患者さんの早期回復・社会復帰に向けた看護ケアを自ら実践し、スタッフへの指導を行います。また、他部署からの看護ケアの相談やRSTでは、一般病棟で可能な看護・呼吸ケアの提案を行います。急変リスクが高い入院患者さんには、早期にICUに収容し集中治療を開始できるよう、各病棟ラウンドを行います。そして、院内研修の講師として研修に参加しています。



トピック1

中学生医療体験教室開催

大勢の優秀な医療人を育成し、世界的にも価値が認められる診療や研究を行っている東京医科歯科大学では、都内在住又は都内の中学校に在籍する中学生を対象に、夏休みに医師・歯科医師・理学療法士・歯科技工士の仕事を体験できる「医科歯科大 中学生医療体験教室」を開催しました。今年は300名近くの応募があった中から、抽選で選ばれた約80名が2019年8月7日(水)に参加し、当院の特色である高気圧酸素治療室の見学や、リハビリテーション医療の体験などを行いました。



トピック2

血管内診療科が消防署員を対象に脳梗塞救急医療セミナー開催

当院は全国でもトップクラスを誇る救急医療を提供し続けています。その中でも人命救助には、現場にいち早く出動する救急隊員との連携が重要であることを日頃から実感しておりました。そこで、さらにレベルの高い救急医療、とりわけニーズの高い脳卒中に対する救急医療を充実させるために、血管内診療科の医師が、消防署などに出張セミナーに伺う企画を立案し、2019年8月に第1回のセミナーを本郷消防署(東京都文京区)にて開催しました。参加した消防署の方からは、「『10分の遅れがその後の患者さんの30年を奪う』という言葉が、とても重みがあり心に響きました。先生方の熱い思いに触れ、プレホスピタルの領域で奉職する者として身の引き締まる思いです。今まで以上に「迅速、確実、丁寧」な救急業務を推進していこうと気持ちを新たにいたしました」という感想をいただき、講師として参加した医師たちも「企画・実施してよかった。消防隊員の方たちが、真剣に話を聞いてくださる姿勢に感動した。こういう機会をもっと増やしていきたい」と今後の抱負を述べました。

